

# 令和元年度 赤十字血液シンポジウム 関東甲信越

日時 令和元年11月30日（土） 13:30～17:20 [12:30 開場]

会場 よみうりホール（読売会館 7階/B2F～6F ビックカメラ）  
（東京都千代田区有楽町1-11-1）

## プログラム

### 1. KANNO血液型システム

座長：関東甲信越ブロック血液センター 内川 誠

- ①血清学的性状及び臨床的意義 東北ブロック血液センター 伊藤 正一
- ②原因遺伝子の解明 日本赤十字社中央血液研究所 小笠原 健一

### 2. 医療機関における各種試み

座長：都立駒込病院 奥山 美樹

関東甲信越ブロック血液センター 津野 寛和

- ①臨床輸血看護師による院内活動の紹介  
船橋市立医療センター 石井 洋子
- ②コンピュータークロスマッチ運用－24時間安全で迅速に血液製剤を払い出すために－  
北里大学病院 小本 美奈
- ③中規模施設における産科危機的出血への対応  
順天堂大学医学部附属練馬病院 岡田 尚子

..... <休憩> .....

### 3. 止血戦略を考える

座長：東京大学医学部附属病院 岡崎 仁

日本赤十字社中央血液研究所 宮田 茂樹

- ①新鮮凍結血漿の供給量の変遷 日本赤十字社 杉山 朋邦
- ②止血を目的とした輸血用血液製剤の現状 日本赤十字社中央血液研究所 五十嵐 滋
- ③院内調製のクリオプレシピテートの臨床効果 都立墨東病院 藤田 浩
- ④フィブリノゲン製剤の臨床効果 埼玉医科大学総合医療センター 山本 晃士

参加費  
無料

事前登録が必要です  
(11/22まで)  
裏面の申込用紙  
でFAXください

#### 交通：

- ・JR「有楽町駅」国際フォーラム口よりすぐ
- ・東京メトロ有楽町線「有楽町駅」D4、D6出口よりすぐ
- ・東京メトロ日比谷線or千代田線「日比谷駅」徒歩3分
- ・東京メトロ銀座線or丸ノ内線「銀座駅」徒歩5分
- ・都営地下鉄三田線「日比谷駅」D4、D6出口よりすぐ

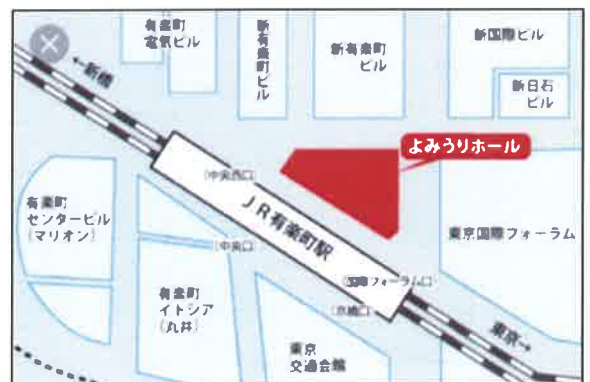
#### 本シンポジウムは以下の制度の単位となります：

- ・日本医師会 生涯教育制度
- ・日本輸血・細胞治療学会等が指定する認定制度
- ・日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師制度
- ・日本臨床衛生検査技師会 生涯教育研修制度

主催：日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター

共催：日本輸血・細胞治療学会関東甲信越支部

後援：日本医師会、日本輸血・細胞治療学会、日本臨床衛生検査技師会



問い合わせ：日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター  
学術情報課 TEL:03-5534-7678 FAX:03-5534-7665

令和元年度

赤十字血液シンポジウム 関東甲信越 参加申込用 FAX 用紙

FAX送付先：長野県血液センター 学術情報・供給課

**FAX: 026-214-8166**

**11/22 (金) まで**  
をお願いします

医療機関名： \_\_\_\_\_

※氏名はフルネームでご記入ください

所属：	職種： 医師・薬剤師 検査技師・看護師・その他	氏名：
所属：	職種： 医師・薬剤師 検査技師・看護師・その他	氏名：
所属：	職種： 医師・薬剤師 検査技師・看護師・その他	氏名：
所属：	職種： 医師・薬剤師 検査技師・看護師・その他	氏名：
所属：	職種： 医師・薬剤師 検査技師・看護師・その他	氏名：

### 1. KANNO血液型システム

2019年8月、日本人より発見されたKANNO（カノ）は37種類目の新たな血液型システムとして国際輸血学会の血液型命名委員会からの認定を受けました。このことは日本での研究で初めての認定になります。今回は、KANNO血液型の血清学的性状及び臨床的意義に加えて、原因遺伝子の解明についての講演を予定しています。

### 2. 医療機関における各種試み

輸血医療の安全対策は、輸血実施の現場で行われるさまざまな工夫が大変寄与します。今回は、臨床輸血看護師による輸血教育を中心とした院内活動の紹介、昨年より保険適応が認められたコンピュータークロスマッチの運用、そして近年広がりが見られる危機的出血の対応から中規模病院での産科的出血に対する運用の紹介を予定しています。

### 3. 止血戦略を考える

2018年8月に日本輸血・細胞治療学会により「大量出血症例に対する血液製剤の適正な使用のガイドライン」が制定され、大量出血時のフィブリノゲン製剤やクリオプレシピテート等の血液製剤の適正な使用について最新の医学的知見が取りまとめられました。このような背景の中、凝固・線溶異常の病態における凝固因子補充には論議の絶えないところです。今回は、特に海外における止血目的とした輸血用血液製剤の紹介の後、院内調製のクリオプレシピテートおよびフィブリノゲン製剤の臨床効果について、実際に使用されている施設からの紹介を予定しています。